



3

温かい心を大切にする 「東っ子」の特別活動

報告者 東京都大田区立大森東小学校 金丸 亜矢先生

1、活動のポイント

本校は、旧東海道沿いに近い昔からの「大森海苔の街」と集合住宅を学区域に抱え、全校児童229名、8学級の小規模校です。近くには、ふるさと浜辺公園という人工の浜辺もある、海に近い場所にあります。「考える子ども」「温かい子ども」「強い子ども」を教育目標とし、小規模校のよさを生かした全校児童集会や1～6年までの縦割り班活動を活発に行っています。来年開校30周年を迎えることもあり、地域とのつながりを大切に、代表委員会が中心となってボランティア活動等を進めています。

本校では、夏に「東っ子サマースクール」を開設しています。地域や保護者の方、近隣の高等学校等の協力で毎年40以上の講座を開き、子どもたちが夏休みを利用して日頃体験できない活動を経験しています。

毎年、代表委員会がユニセフ募金の活動を計画し、全校児童に募金を呼びかけていますが、代表委員会の子どもたちからもっとユニセフの活動について知りたい、ユニセフに送ったお金がどのように使われているのか全校児童に紹介したいという声がありました。そこで今年度は夏のサマースクールを利用して、日本ユニセフ協会のあるユニセフハウスを地域の方と一緒に訪問しました。

2、実践

(1) ユニセフの募金活動

〔募金活動の計画・準備〕

- 4月 発足した代表委員会のメンバーで委員会の時にユニセフの活動について本や活動事例集で調べる。
- 6月 ユニセフ募金ポスターを作成する。
- 7月 日本ユニセフ協会を訪問する。
- 8月 ユニセフハウスで学んだことをまとめる。
- 9月 全校朝会にてユニセフ募金について代表委員会が全校児童に呼びかける。ユニセフハウス見学で学んだことや募金が何に使われるかを分かりやすく説明する。正面玄関でユニセフ募金を行う。
- 集めた募金を日本ユニセフ協会に送る。



ユニセフ募金を呼びかける



ユニセフ募金

[日本ユニセフ協会見学の様子]

夏休みの7月24日に代表児童と地域の方、担当教員が日本ユニセフ協会を訪れました。協会の方の説明を聞き、世界で行われているユニセフの仕事について現地で使用されている実物の水がめや井戸、ワクチンなどに触れながら多くのことを学びました。



説明を聞く

私は、ユニセフハウスを訪れて改めて世界の現実を知ることができました。私たちが当たり前と思って生活していることが行えない子どもたちが世界にはたくさんいます。こうしている間にも亡くなっている幼い命があると思うとこわくなってしまいます。けれどもそういうことが私たち一人一人の少しの協力で減っていくことがわかりました。私はユニセフの募金をずっと続けたいと思いました。 (子どもの感想)



水がめを前に

(2) その他の本校の特別活動

本校は、思いやりをもち、互いに仲良く助け合う子どもを育てることを目指しています。今回、ユニセフで世界のことを学びましたが、本校は、麻布にあるイラン人学校と10年以上も交流を続けています。文化の違いを知りながら仲良く行き来をしています。また、海外協力隊に参加した経験のある教員が中心になり、サマースクールで子どもたちの保護者に関係のある国の料理教室などを実施し、いろいろな国とかかわろうという気持ちを育てています。他にも地域の方と協力して、ボランティア清掃やエコキャップ集めなどを行っています。



本校の特別活動



3. まとめ

ユニセフハウスを訪れたこと、そこでお話しを伺ったことにより、ユニセフの活動は単なる募金集めではなく、世界の人と一緒に生きていくという温かい気持ちをもつことが大切なのだとということを子どもたちの中に育てることができました。見学に行った代表児童は、機会があるごとに、学校で普通に学ぶことができる幸せを友達に伝えています。本校は、今後も代表委員会を中心にユニセフの活動にかかわっていきたいです。